

野津田公園スポーツ施設の建設(計画)の目的と実態を明らかにすることを求める請願  
<請願要旨>

野津田公園の上の原では、ゼルビアの試合日の、上の原「バス転回広場」と拡幅された華厳院横の道路、それと芝溝街道の野津田車庫の信号からの出入りと鎌倉街道周辺の渋滞状況が全く解消されていません。

この、上の原「バス転回広場」と華厳院横の道路拡幅工事は、一体のものとして実施されたはずです。

ところが、前者を担当した公園緑地課は、その主な目的は防災にある、と説明し、後者を担当した道路課は、ゼルビアの試合日の観客輸送対策だとしています。同一・一体の事業であるならば、別々の目的で説明すること自体、納得できません。案の定、町田駅との送迎は、この上の原からは中止されています。また、目的の一つ、野津田公園周辺の試合日の渋滞解消どころか、バス会社のプリンシプル自動車に電話で確認すると、【苦情が殺到した】そうです。同社は4/10にゼルビア関係者と下見をした際、[この狭い道幅ではバス10台以上は無理だと感じた]そうです。警備会社も悲鳴をあげ、周辺一帯の道路の渋滞は、全く解消されなかつただけでなく、逆に激化しました。

上の原「バス転回広場」工事には7000万円、道路拡幅工事には8000万円が使われました。合計1億5000万円を費やして、元の木阿弥となった。子どもたちの遊び場の草地をアスファルトで覆っておきながら、これ程の、税金の無駄遣いとなった今回の工事について、それを指示した前町田市長と担当した公園緑地課の責任が問われて然るべきではありませんか？

そもそも、この上の原のアスファルト2000平米は、どこが防災の役にたっているのか、検証が必要です。説明会では、大型車両が防災のためここに物資を運ぶ、と言い、では、避難者となる競技場利用者までどうやって届けるのか、と問われ、小型車に移して運ぶ、と答弁しました。防災は、軽々しく事業目的の説明材料に使ってはならないと思います。公園駐車場を有料化し、料金所を建てたら、消防団が訓練できなくなった事実もあります。今後、災害規模が拡大するというのに、防災拠点である公園の所管課が、本気で防災に取り組んでいるのか、疑問です。

また、この担当課の名称には、緑地が入っています。地球温暖化阻止のため、全市民の先頭に立って緑地の保全と拡大が任務のはずです。子どもたちの遊ぶ場、草地と雑木林の、草や虫が生きる場、2000平米をつぶして、アスファルトで埋める行為が、どうして緑地課と両立するのか、伺いたい。サッカー試合が、真夏に行なわれない、そういう中で選手が持てる体力、気力を振り絞っているのではないのでしょうか？

ゼルビア支援を打ち出すなら、少しでも試合環境を守るべきだと思います。「自然の中のスポーツ」をお飾りとしないうために。

渋滞解消もできず、公園緑地にダメージを与えるならば、今回の工事は無駄遣いだけでな

く、時代の流れに逆行したものだと言わざるを得ません。抜本的解決策を市民参加で打ち出すために、納得できる検証と、関係者一同による努力、協力を求めます。

次に、町田市の野津田公園湿生園に建設されるスケートパークについて工事説明会で提示された資料の基本的データに誤解を招く部分があります。

2024年11月に開かれた同施設の基本設計説明会では、二つのスケート施設はそれぞれ、2900平米、2300平米でした。(合計5200平米)一方、この調整池の底面の面積は5500平米です。つまり、スケート施設以外の面積は300平米となります。ところが、図面でその面積は、少なくとも1000平米はあると思われるため、実際の面積を情報公開で公園緑地課に問い合わせました。時間がかかり、督促して情報開示などで頂いた返事は、まず、基本設計の計画平面図(説明会資料の6ページ)で黄色く塗った部分は、それぞれの施設面積に流路やパークエントランスなどを含んだ「整備工事」の面積であり、スケート施設そのものの面積(予定)は、スケートパークは2890でなく、1840平米で、フローゾーンは2240でなく、1200平米、というものでした。それぞれ、説明会資料のデータより、1000平米ほど異なります。おおよそ5500平米の計画面積で2000平米の誤差はかなり大きく、明らかに許容範囲を逸脱していると思われます。

また、湿生園の調整池機能を担保するため、流入雨量はスケート施設の上に滞留し、人工的に排水せず、中断されたまま、となります。結果、施設の利用は日本で有数の施設となるそうですが、富山のこうした施設を専門とする企業と連携して作成したデータが、約四割の誤差を産みかねないものだとなれば、計画立案やチェック機能が万全か、問われます。この資料のこの部分は、市民に極めて不親切な作りです。

問題は、野津田公園で、様々な施設の設計、建築、使用について、疑問が累積していることです。例をあげます。たとえば、バラ広場跡地のテニスコートは、8面の計画が4面止まりで中途半端です。バラ広場は木陰から日向へ移され、バス転回広場は使用開始直後に、主な輸送先、町田駅とのピストンの中止を招いています。もはやこれ以上、場当たりのでトップダウンのやり方を続けたら、益々弊害が大きくなります。

以上から、野津田公園の上の原や湿生園におけるスポーツ関連施設の建設・運用計画を適切に見直すよう、次の諸点を要望致します。

#### < 請願項目 >

- 1 公園施設の建設計画の立案と説明内容を検討し、整合性のない場合、適切な措置をとること。
- 2 説明された工事の目的が、施設運用後、実態と著しく相違する場合は、二度と繰り返されないような合意を得るため努力すること。
- 3 長期化する野津田公園周辺の試合日の渋滞解消のため、サポーターの運送などについて、行政・議会・サッカー関係者と周辺市民が意見を交換し話し合う場を設けること